

安東俊夫●

昨年10月に出版された、『ゼロから見直す根尖病変 診断, 治療コンセプト編』の続編である。ひとことで根尖病変といってもその病状, 病態は実に多様であり, その診断, 治療方針には大いに悩むのが臨床医としての実感である。

歯科治療にもトレンドがあり, 最近では極力歯を残す, ペリオ, エンドへ関心が出てきているように思われる。マイクロスコープ, CTの登場はさらにそれを加速させているようだ。たとえ, そのような医療機器, 診断装置の質が向上したとしても, また, エンド治療のコンセプトを理解したとしても, 私たち歯科医師はそれを具現化する手技が伴っていないとすれば, その理論は砂上の楼閣に過ぎない。

「診断無くして治療無し」著者の恩師の下川公一氏の言葉であるが, この度「治療」の部分にフォーカスを当てた本著が出版された事は誠に嬉しい限りである。2冊の本を通じて, これほど規格性を持った正確な資料, わかりやすい解説, そして全ての症例に長期的な予後を示している点, エンドの本としては類を見ないとまず感じた。

この本の前半部分では, 根尖病変の原因である起炎因子を如何に減弱させるか, そのための手技を詳細に解説している。ぶれの無いコンセプトに裏打ちされた一連の流れは, 大変わかりやすく整理され, 理解しやすい構成となっている。特に著者が強調しているアクセスキャビティ, ストレートラインアクセスの重要性は, いまさらながら基本手技の大切さを再認識させられた。

本の後半部分は, 通法では治癒しないケース, 再治療故の基本の概念から逸脱した病状等, いわゆる難症例への対処である。通常の根管治療で症状改善しない場合はまずは診断の見直しをはかり, 再度の戦略を練り直すことが重要である。そのうえで, できることはすべて手を尽くしたうえで改善が認められない症例に限り, 外科的歯内療法を選択するべきだと述べている。外科的歯内療法のハードルが下

ゼロから見直す根尖病変
基本手技・
難症例へのアプローチ編
倉富 覚, 著
定価 9,720 円 (本体 9,000 円
+税 8%)
医歯薬出版株式会社 刊



がってきている昨今であるが, 失活歯の長期保存の観点から保存的な根管治療を優先しようとする著者のこだわりを感じるところである。各症例に対して, 診断, 治療の実際, 治療経過まで規格性のある口腔内写真, デンタルエックス線やCT, マイクロスコープの画像等, 豊富な資料とともに丁寧に解説している点, 「お見事」としか言いようがない。

最後のパートでは, 根尖性歯周組織炎は主に歯根膜の炎症である故に, その炎症の治癒過程は, 長期に及ぶ経過観察で実証するほかはないと力説している。根尖根管治療は再治療歯の場合が多く, 前医師の批判をさげ, 患者さんの理解を得ながら長期に及ぶ治療を継続し, まして予後まで追うのは, 言葉で言うほど簡単ではないのは, 読者も承知のことであろう。

この本を読んでいると, 倉富先生が飄々としながらも確実に, 粘り強く, やさしく, 患者さんへ治療を行う姿が目につくようである。その背景には, 効率よい医院の診療システム, 患者さんからの圧倒的な信頼がベースにある事は間違いない。

各所にでてくる下川先生至言葉集, 言われた言葉を忘れずに正確に文書に落としこんでいるあたりに, 倉富先生の師匠に対する畏敬の念を改めて感じると共に, 私たち歯科臨床を行うものへのいい教訓の一つとなることと実感している。

本著と前著を是非座右の書の一つとして精読し, コンセプト, 診断, 基本の大切さ, 継続する歯科臨床の素晴らしさをこの本で感じてほしい。

(あんどうとしお 〒816-0932 福岡県大野城市瓦田1-16-12)